

令和4年度
福島大学 人間発達文化学類 芸術・表現コース 総合型選抜
小論文

問題

以下のA. (音楽), B. (美術) から、一題を選んで論述しなさい。
選んだ問題の記号を、解答用紙の【 】に必ず記入すること。
(注意事項: 解答用紙の1マス目を1字とする。句読点も、行末の場合を除き1字と数える。算用数字やアルファベットは、1マス目に1字入れることとする。)
*原文が常用漢字以外のところは、一部「ふりがな」をふってあります。
*出題に当たり、原文の一部を変えています。

A. 次の資料は、岡田暁生著『音楽の危機』(中央公論新社, 2020年) から、一部抜粋したものである。これを読んで、下の(1)(2)の設問に答えなさい。

いうまでもなくコロナ禍がもたらした最大の災いは、「空気の共有」に対する全世界の人々の忌避感である。わたしにしても時折、人と会うとき半無意識に顔をそむけ、距離をとっている。ふつうだったらこれは相手にいぶかれるよそよそしさだ。しかるに音楽とはまさに、人と人の間のこうした距離を縮めるためにこそ、存在してきたはずだ。だから「ソーシャル・ディスタンス」を強いられると、音楽は商売あがったりになってしまうだろう。どんなにがんばってみても距離が縮まらないのだから、存在している意味自体がなくなる。例えばシールドでステージと客席を仕切ってライブハウスを再開したとして、もちろん最初は久方ぶりの生の音楽ということで感慨もひとしおだろうが、やがてシュールリアリスム的な乖離感^{かいり}が生じないだろうか。いわば集わない／集えないことを確認するために、わざわざ集っているというような妙な感覚である(周知のようにソーシャル・ディスタンスとは感染防止のための新しい生活様式のキーワードであり、飲食店などいたるところで「ソーシャル・ディスタンスのために……をお願いします」といった貼り紙が出されるようになった)。

これが文学の場合なら、一人で誰とも会わず読むのが常態であるから、こうした非常時にとても向いた形式だといえる。また美術も音楽に比べれば「孤独な鑑賞」の側面が強い。一枚の絵を前に何千人もの人が群がって、抱き合って熱狂している光景など想像もつかない。それにたとえ美術館が閉鎖になったとしても、「絵がなくなってしまう」などということは起きない。絵はモノだから、盗難にでもあっていない限り、(おそらく)ちゃんとそこにある。しかし音楽は違う。それはモノではなく、空気振動をリアルタイムで共有する芸術形式だ。したがって人と人とが空気を共有しなくなったら存在しないも同然になる。しかしまた、複数の人が空気振動を同時に共有するからこそ、音楽だけがもつあの興奮と熱狂と一体感は生まれてくる。

今わたしは「人と人とが空気を共有しなくなったら音楽は存在しないも同然」と書いた。いぶかる人もいるだろう。「いや、そんなことはないよ、コロナ禍による自粛期間中も一人自宅で音楽を熱心に聴いていたよ?」と。議論の錯綜^{さくそう}を避けるために敢えて言おう。音楽にはまったく性格が違う二種類の

「音楽」があるのだ。ライブ音楽とメディア音楽である。そしてわたしが「音楽が消えた」というときに指しているのは前者であり、「自粛期間中もずっと音楽を聴いて癒やされていた」という人が指しているのは後者なのである。

それでもなお異論はありうる。「コロナといわずすでにかなり前から、もうほとんどの人は電気メディアを通した音楽しか聴いていなかったのではないか、ライブの音楽をわざわざ聴きに行く人などごく少数のマニアだけだろう? 「音楽」とは今やメディアを通して聴くものになっているのだから、ライブがなくなろうがたいした変化はないし、そんなことを惜しむのはただのノスタルジーじゃないか?」といった反論だ。もちろんわたしは「ライブこそが本来の／本物の音楽なのだ!」などと反動的な主張をしているわけではない。ライブ音楽とメディア音楽を「まったく別もの」と考えることで初めて見えることもあるといたいだけだ。例えばこのところよく「ネット飲み会」や「ネット帰省」といったことがいわれるようになった。しかし本当に問うべきは、ネットで故郷の家族や親戚と話したとして、それは果たして「帰省」なのかということだろう。「ネットでも簡単に……できちゃう」というオートメーション化を無反省に受け入れることは危うい。安直に「ネット帰省」などと口にする、その瞬間から「実際は帰省できなくなっている」という事実が目に入らなくなってくる。故郷に自ら足を運ばないことで決定的に失われる何かを見逃してしまう。

音楽においても問題の所在は同じだ。例えばある歌手の歌声という「コンテンツ」を聴者の耳元に確実に送り届けられさえすれば、手段が何でも同じだということになるのか? 音楽とはその場でステージと客席が一緒になって作り上げる何かではなくて、通販のパッケージのようなものだったのか? 情報伝達の利便性だけが選択基準になっていいか? 何度もいうが、わたしは録音音楽を決して否定はしない。そもそも録音資料がなければわたしのような職業は今や成り立たない。ただ、ライブ音楽とメディア音楽を「似ても似つかないもの」と区別することが、状況認識にとって有効な局面もあるということに、注意を向けたいのである。

(1) この文章内容を、300字以内で要約しなさい。

(2) ライブ音楽とメディア音楽は、どう異なるのでしょうか。コロナ禍は、これら二つの音楽に、それぞれどんな影響を及ぼしているのでしょうか。資料と関連付けながら、あなた自身の考え、知識、経験を交え、700字以内で論じなさい。

B. 次の資料は、安野光雅著『カラー版 絵の教室』（中央公論新社、2005年）から一部抜粋したものである。これを読んで、下の（1）（2）の設問に答えなさい。

この部分に記載されている文章については著作権法等の問題から公表することができませんのでご了承ください。

この部分に記載されている文章については著作権法等の問題から公表することができませんのでご了承ください。

（1）この文章を300字以内で要約しなさい。

（2）絵画作品の「良し悪し」に関するあなたの考えを、資料と関連づけながら、あなた自身の知識や経験を交え、700字以内で論じなさい。

令和4年度入学試験 小論文「出題意図」

(入試情報公開用)

人間発達文化学類 総合型選抜 芸術・表現コース

音楽または美術に関する文書資料を提示し、それに関して1000字程度で論述させることにより、読解力、論述能力、および芸術に関する知識や関心を総合的に見ることをねらいとする。